

KANSAI*OSAKA

文化力

No.116

2013/SPRING・春



関西・大阪21世紀協会
設立30周年記念式典

企業メセナ最前線

株式会社フジオフードシステム

藤尾政弘 社長

大阪文化考

平成24年度大阪文化祭賞 奨励賞受賞

地主黨バレエ団 地主黨さん・奥村康祐さん

受賞者発表

大阪文化祭賞・関西元気文化圏賞

トピックスニュース

上方文化芸能協会の事業を継承 他

イベント予告

DOORS 7th、平成OSAKA天の川伝説

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

設立30周年 記念式典



鎮魂延年「黒い媼（おうな）」舞

舞・小笠原 匡氏

(能楽師和泉流狂言方／重要無形文化財総合指定保持者)

「延年」とは、寺院において大法会後の余興として僧侶や稚児が行った芸能の総称で、平安中期に起源をもつ。「黒い媼」舞は、2010年に島根県の名刹・清水寺で芸能の神でもある摩多羅神(またらしん)像が発見されたのを機に、2012年4月に民俗仮面研究家・乾武俊氏と能楽師和泉流狂言方・小笠原匡氏が考証創作したもの。関西・大阪21世紀協会設立30周年の式典にあたり、芸能精神の原点に立ち返り、地鎮・鎮魂の思いを込め披露された。

設立30周年を迎えて関西・大阪21世紀協会は、
2013年2月18日、国立国際美術館(大阪市北区)において、
「設立30周年記念式典と感謝の集い」を開催しました。

協会の賛助会員をはじめ歴代理事、評議員、元協会スタッフなど、
大阪の文化振興や都市魅力の向上にむけて共に活動してきた人たちが一堂に会し、
設立以来変わらぬ志のもと、「文化立都」実現への思いを新たにしました。



文化を社会の活力として 「民」が支える公共活動を推進



公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
理事長 堀井 良殷

まず日頃のご支援に心からの感謝申し上げます。

30年にわたり温かいご支援とご協力をいただき、「文化の灯は重要だ。しっかりやれ」というお励ましの言葉を多くの方々からいただいたからこそ、今日こうして活動を続けることができています。さらにこの30周年にあたり、多くの方々より激励をいただきました。重ねて御礼申し上げます。これまで苦勞を共にしてきた職員やスタッフの皆さんにも御礼を申し上げます。

30年前、活力ある21世紀をめざして大阪21世紀協会を設立された先人の高い志と理念は、21世紀になってもいささかも色あせることなく、それどころか、ますますその理念の正しさと、いまだ道半ばであるがゆえにその重要性を増していると思います。

21世紀になって、長引く厳しい経済状況や行政の財政危機、あるいは相次ぐ自然災害などに見舞われましたが、そのなかで私たちは、改めて日本人の持つ精神的な強さを自覚することとなりました。物が壊れることがあっても心が壊れてはならない。自信と誇りと勇気を持って自立して行かなければならないということを学びました。

この10年、とくに私たちが微力ながらも力を入れて参りましたのは、関西・大阪の持つ文化の力を社会の活力に活かし、誇りを持って世界と向き合えるまちにしたいというただその一点を願ってのことでした。私たちが推進して参りました「水の都大阪」を磨こうという運動も、皆様のご尽力のおかげで水辺の風景が一変し、21世紀の大阪の社会運動として歴史に残る成果を上げたと思っております。

大阪の地域としてのブランド、つまり、人に人格があるように都市にも都市格があると思います。そのブランドを磨き、品格ある都市として世界に発信して行く活動は、息長く倦まずたゆまず諦めず、長期にわたって続けなければならないと存じます。

いま日本の成長戦略のためイノベーションが求められていますが、文化こそが創造力の源泉であり、イノベーションの母ではないでしょうか。答えのない問題の解決には文化の力が必要です。情報の収集と分析のためには、幅広いそして深い文化的な素養が必要であります。だからこそ社会の文化的風土づくりが極めて重要だと考えます。

なにわ大阪には、日本の国づくりが始まって以来の伝統が幾重にも折り重なって集積しております。それらを今一度洗い直し、確認しつつ、新たな創造活動に結びつけなければならないと思います。そのためには人を育て応援することが鍵となります。次世代を担う方々には、歴史と伝統に学び、しっかりした世界観、大局観を備えた人材に育ててもらいたいと願っています。

とくに企業の方々には、これまでも貴いお志をいただき、物心両面のご支援をいただいて参りました。今後さらに幅広い市民にも参加いただき、企業、NPO、個人など、志のある方々の心と心を繋ぎ、市民が“志民”となり、「民」が支える公共的な活動がますます活発になりますよう推進して参りたいと考えております。どうか引き続きご支援、ご指導賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

(設立30周年記念式典「御礼のご挨拶」)

厳かに、華やかに 「文化立都」への思いを高揚

会場となった国立国際美術館には、400人を超える参列者が集い、記念式典は、住吉大社に伝わる「住吉踊」で幕を開けた。この踊りは神功皇后の時代から伝わるもので、江戸時代には全国に広まり、東京浅草の「かっぽれ」の起源ともなった。この日は、約20人の少女が教導師の音頭に合わせて客席の間を踊りながら回り、天下泰平、庶民繁栄を祈願した。

子どもたちの軽やかな踊りに続いて、能楽師 小笠原 匡氏による鎮魂延年「黒い媼(おうな)」舞^(P1参照)が始まると、会場は一転して厳かな雰囲気包まれた。腰を屈めた媼(老女)がゆっくりとした仕草で地鎮・鎮魂の舞を披露し、澄んだ鈴の音が会場全体に響き渡った。その後、関西フィルハーモニー管弦楽団がヨハン・シュトラウス作曲の「ラデツキー行進曲」を演奏しながら入場し、張りつめた空気が華麗なムードに一変した。指揮を執るのは同管弦楽団首席指揮者の藤岡幸夫氏。ワーグナー作曲の楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー(第1幕への前奏曲)」が披露され、迫力ある演奏で参加者の「文化立都」にかかる思いを高揚させた。この後、「映像で綴る協会30年のあゆみ」が上映された。

続いて当協会の堀井良殷理事長が御礼の挨拶を行った後、オペラ歌手の増田いずみ氏が「われら愛す」を独唱した(伴奏:平山朋子氏)。この歌は、1953年、サンフランシスコ講和条約発効1周年を機に新しい国民歌をつくろうと、壽屋(現サントリーホールディングス)社長の佐治敬三氏(大阪21世紀協会・第3代会長)が全国公募して作られたもの。歌詞5万点、曲3千曲のなかから、サトウハチロー氏や山田耕筰氏らの審査によって選ばれ、現在も一部の学校などで歌い継がれている。この日は、関西・大阪が美しい日本の未来と地球社会に貢献する地域でありたいという思いを込め、式典のフィナーレを飾った。

式典会場となった国立国際美術館は、世界的に珍しい完全地下型の美術館で、地下2階の吹き抜けにはジョアン・ミロや須田悦弘などの作品が常設されている。その長方形の展示スペースを式場として効果的に活用するため、ステージを取り囲むような格好で上手と下手に来場者席を配置。関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏などが身近に体感でき、ドラマチックな演出が一層引き立てられた。

式典後に行われた「感謝の集い」では、当協会の熊谷信昭会長が、「文化の薫り高い魅力ある大阪の実現に向けて30年。これからも先人が掲げた高い理想をもって、世界の人たちから敬愛される名誉ある都市となるよう力を尽していきたい」と挨拶。協会賛助会員をはじめ、元協会副会長、歴代理事や評議員、元協会スタッフが一堂に会し懇親を深めた。

また、料理研究家・田中愛子氏のプロデュースで、関西の若手食文化クリエイターたちが、独自のスタイルを発揮した日本料理やフランス料理、スイーツ、フラワーアレンジメントで来場者をもてなした。

「われら愛す」

作詞:芳賀秀次郎 作曲:西崎嘉太郎

われら愛す
胸せまる あつきおもひに
この国を われら愛す
しらぬ火 筑紫のうみべ
みすずかる 信濃のやまべ
われら愛す 涙あふれて
この国の空の青さよ
この国の水の青さよ

われら歌ふ
かなしみの ふかければこそ
この国の とほき青春
詩ありき 雲白かりき
愛ありき ひと直かりき
われら歌ふ
をさなごのごと
この国のたかきロマンを
この国のひとのまことを

われら進む
かがやける 明日を信じて
たじろがず われら進む
空に満つ 平和の折り
地にひびく 自由の誓ひ
われら進む
かたぐうでくみ
日本(ひのもと)の清き未来よ
かぐわしき夜明けの風よ



関西フィルハーモニー管弦楽団



増田いずみ氏

30周年

関西・大阪21世紀協会 設立30周年記念式典

「住吉踊」で天下泰平を祈願（住吉踊保存後援会）



藤岡幸夫氏



感謝の集い

鎮魂延年「黒い蜷（おうな）」舞（小笠原 匡氏）



熊谷信昭会長



中村翫雀氏（歌舞伎俳優）

「文化は遊びの中から生まれてくるものであると同時に、人を育てることで守られていく。その意味で私たちが21世紀に何を残せるかを考え、活動していきたい」



関西の若手食文化クリエイターたちが腕を奮い、来場者をもてなした（感謝の集い）。



協会設立30周年記念誌
「文化立都—都市格の向上をめざして—」

既刊「20周年記念誌」の続編としてこの日に発刊した。過去10年の協会活動や各界からのメッセージを掲載。表紙および中扉には、アートストリーム2012で関西・大阪21世紀協会賞を受賞した日本画家・藤原郁子氏の「文化の女神」が採用されている。B5版・248頁。



開式前に特別展「夢か、現か、幻か」（映像作品）を鑑賞する参加者

「大阪21世紀計画」30年の軌跡

1983年10月、「美しく品格ある人間の住みかを作ろう」という長期的かつ壮大な「大阪21世紀計画」がスタートしました。以来30年、その推進母体として産学官が一体となって設立された大阪21世紀協会は、関西・大阪を文化によって活性化させるさまざまな提言や活動を推進してきました。ここでは、その一部をご紹介します。

1982年(昭和57年)～1992年(平成4年)

1982年 財団法人大阪21世紀協会設立(4月8日)
(松下幸之助会長、古川進理事長)

1983年 大阪21世紀計画開幕式(10月8日)

皇太子殿下・同妃殿下(現天皇・皇后両陛下)ご臨席の



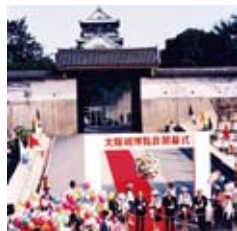
もと、大阪城ホールに国内外から9,000人が参列。松下幸之助会長が大阪21世紀計画のスタートを宣言しました。



大阪21世紀計画開幕式

1983年 大阪築城400年まつり

大阪21世紀計画のスタートを飾る「大阪築城400年まつり」のメインイベント「大阪城博覧会」を開催。国内外110隊・15,000人が参加した「オープニングパレード」は、以後「御堂筋パレード」として2007年まで続けられました。



大阪城博覧会(1983.10.1～11.30/入場者532万人)



オープニングパレード(1983.10.9/沿道観衆130万人)

1987年 天王寺博覧会(8月1日～11月8日)

大阪市市制100周年(1989年)の記念事業として協会が主催。関西国際空港開港(1994年)で大阪の南の玄関口となる天王寺・阿倍野地区の整備を誘発しました。



天王寺博覧会(入場者247万人)

1990年 「国際花と緑の博覧会」誘致に貢献

政府による「緑の3倍増構想」の一環で計画された「花博」の大阪開催に向け、協会は当時の芦原義重会長(万博記念協会会長)をはじめ、副会長の宇野収関西経済連合会会長、佐治敬三大阪商工会議所会頭、岸昌大阪府知事、西尾正也大阪市長、中塚昌胤理事長(元NHK副会長)が中央政財界へ積極的な誘致活動を展開。浦安市や川口市などを抑えて誘致に導きました。協会スタッフは全国の園芸関係者を訪ねて出展や観客動員に全力をあげ、大阪は自然と環境に深い関心をもつ文化都市であることを国内外にアピールしました。



国際花と緑の博覧会
(1990.4.1～9.30/入場者2,300万人)

1993年(平成5年)～2001年(平成13年)

1993年 関空開港で大阪・関西をアピール

この年、行政や経済団体などによる「関西国際開港記念キャンペーン推進協議会」が発足。協会が事務局となり、関西国際空港開港(1994年)をはさむ前後3年間、大阪・関西の知名度を上げるさまざまなキャンペーンを展開しました。



大阪ウォーターフロント・トライアスロン国際大会(1994.6/りんくうタウン一帯)



アルフォンソ・ミュシャ展
(1994.4/堺市博物館)

1998年 大阪21世紀塾

梅棹忠夫氏(当時・協会企画委員会座長)を名誉塾頭として「大阪21世紀塾」を開塾。第一級の知との交流を通して、21世紀を生き抜く人間力の涵養を目指しました。



梅棹忠夫氏(1920～2010)



大阪21世紀塾(1998～2006)

30周年

2000～2001年 世紀越えイベント

2000年大晦日、大阪城公園・太陽の広場を中心に実施。0時の時報と同時に大阪城天守閣からレーザー光が放たれ、世紀越えの瞬間を盛り上げました。2001年元日には大阪城ホールで「21世紀開幕式典」を開催。大阪フィルハーモニー交響楽団などが阪大オーケストラに会し、新世紀の到来を盛り上げました。



大阪城カウントダウンフェスティバル (2000.12.31)



21世紀開幕式典 (2001.1.1)

2002年(平成14年)～2012年(平成24年)

2002年 「水の都大阪再生の戦略(案)」を提案・推進

政府の都市再生本部で承認された「水都大阪再生計画(大阪府・大阪市)」のマスタープランとして協会が提案。シンボルイベント(水都大阪2009)開催など、ソフト先導型のハード整備を推進しました。



「花と緑・光と水懇話会(2002.12.18)」で提案

2004年 大阪ブランドコミッティによる活動(～'07年)

大阪にあるブランド資源を掘り起こし、磨きをかけ、発信する、オール大阪の精神作興運動。「桜の会・平成の通り抜け」「クールスタイル(クールビズ)」などの実現につながりました。現在は協会がブランディング活動を継承しています。



「桜の会・平成の通り抜け」植樹式 (2005.1.8/毛馬桜宮公園)



クールスタイルの発表 (2005.5.17/大阪国際会議場)

2004年 「お花見水上カフェ」を開設

大阪初の川開きイベント「水都ルネサンス大阪」に連動し、

大川にてオープン。2007年まで続けられ、多くの人々が春の水辺を楽しみました。

お花見水上カフェ(2004.4/大川・天満橋北詰)



2007年 御堂筋完成70周年記念パレード

ミュージカル風の演出で大阪の歴史を表現。市民参加も取り入れ、143団体・約9,000人の参加者と125万人の沿道観衆で賑わいました。



昔懐かしいTV番組の「とんま天狗」号

2009年 「水都大阪2009」開催

協会提案による水都大阪のシンボルイベント。最終日には大川・八軒家浜棧橋を拠点にOSAKA水上音楽パレードを開催。御堂筋パレードに代わる高校吹奏楽部の発表の場として現在も継続しています。



河川のゴミで作った「金チヌ」(水都大阪2009・2009.8.22～10.12)



OSAKA水上音楽パレード(2010.10.3)

2010年 「関西・大阪文化力会議」開催

関西で活躍する文化人、学界・経済界などのオピニオンリーダーや市民、NPO、メセナ、行政関係者らによる文化会議を開催。関西・大阪が抱える文化課題を抽出・発信し、関西ひいては日本を活性化する方策を探りました。以後、現在も継続して開催。



関西・大阪文化力会議 (2012.4.25/大阪国際会議場)

2010年 平成OSAKA天の川伝説(P17参照)

2012年 公益財団法人 関西・大阪21世紀協会として新たにスタート。同年、大阪城サマーフェスティバルの新企画「オープニング・ガラ」(P9参照)を開催。

株式会社フジオフードシステム 代表取締役社長 **藤尾政弘氏に聞く**

セルフサービスの大衆食堂「まいどおおきに食堂」をはじめ、大衆居酒屋「かつぼうぎ」など24ブランド・652店舗（2013年1月現在）を超える飲食店を国内外で展開するフジオフードシステム。「食堂は大嫌いだった」という藤尾政弘社長に、生まれ育った天満の地で食堂事業をスタートさせた理由や社会貢献活動に取り組む思いについて伺った。

ふるさと天満で学んだ心の触れ合いの大切さ

母を元気づけたい一心で

私は4人兄弟の末っ子で、両親は天神橋筋商店街（大阪市北区）で食堂を営んでいました。職人さんや女性スタッフを抱え、両親は朝から深夜遅くまで働き詰め。商売人の家では普通のことですが、あまりかまってもらえず、住み込みで働くおばさんが小学校に迎えに来てくれたり、夜には一緒に寝てくれるなど気遣ってくれました。

トラブルも少なくありませんでした。あるときホールのおばさんが「ざるそば一丁」と注文を通したら、板場の職人が鍋をひっくり返して激怒したことがありました。「ざるそばは“一枚”で通せ」というのです。おばさんが困って謝っている姿を今も覚えています。

飲食業は好きでしたが、食堂という業態は大変な仕事と子ども

心に思っていましたのでしたくありませんでした。大学卒業後は、キッチンバー、カフェなど食堂以外の業態でお店を増やしていきました。お店が開店するたびに父に報告をすると、とても喜んでくれました。

しかし、1987年に父が亡くなり、母が少し元気をなくしたように思えました。私はそんな母を元気づけたい一心で、その翌年、天神橋筋商店街に「まいどおおきに食堂」の第一号店「森町食堂」をオープンさせました。

子どもの頃の体験から、女性や高齢者が笑顔で働ける食堂にしたいと思っていた私は、職人に頼らないメニューに限定し、あえて40歳以上の女性と一緒に働くことにしました。以来、店舗展開をするなかで、たくさんの雇用を生むことが社会的意義のあることだという想いも強くなってきました。

大阪天満宮と食堂経営

私は小学3年生の夏、中耳炎を悪化させてしまい、父は大切な時間をかけて手術をしてもよい方法がないかと病院探しに駆け回ってくれました。しかし、どんどん悪化する中で、大阪の北野病院で手術をすることになりました。全身麻酔をするほどの大手術でした。手術は無事に成功したのですが、聴力の回復には時間がかかりました。少しの間、補聴器などが必要な時期がありました。友だちと会話することも嫌になり、大阪天満宮の境内でひとり地面に字や絵を書いて遊ぶようになりました。ここにいれば神様が耳を治してくれるだろうと思っていました。

幸い5年生になるころには聴力も少しずつ回復し、店を手伝うことも増えてきました。料理も一通り覚えるようになりましたが、失敗もたくさんしました。出前の配達中にどんぶりを落としてしまったり、うどんのダシをほとんどこぼしてしまって、お客さんに怒鳴られ、泣きながら帰ったこともありました。店に帰ると母は心配そうに私の顔を見て、笑顔で一言「お疲れさん」とねぎらってくれました。





まいどおおきに食堂・第1号店「森町食堂」(大阪市北区天神橋)。看板やメニューの文字は藤尾社長の自筆。



「Ring of Red 交野市チャリティーマラソン(実行委員長・元阪神タイガース 赤星憲広氏)を特別協賛。写真はスタートの号砲を撃ち鳴らす藤尾社長(2012年3月)。



大阪天満宮天神祭の奉納花火の奉賛会長も引き受ける。

天神祭になると、商店街は大変なにぎわいになります。私は手伝いの合間に店先から奉納花火を遠目に眺め、「いつかはもっと近くで花火を見たい」と思っていました。

大阪天満宮は私の心の拠り所であり、天神祭には人との触れ合いの楽しさを感じました。これは食堂経営にも通じます。私は天満の地で人と人の心の触れ合いの大切さを子どもの頃から学ばせてもらいました。だから2007年に大阪天満宮花火奉賛会会長のお話をいただいたときは、喜んでお引き受けさせていただきました。

「涙そうそう」

「森町食堂」を皮切りに食堂事業を展開した弊社は、その後店舗を拡大し、創業から24年の月日をかけてようやく、大阪証券取引所のヘラクレス(現ジャスダック)市場で株式上場を果たしました。同市場で第一号の上場企業だったこともあり、当時は大きく注目されました。

大阪証券取引所の上場記念の伝統であります「大阪締め」でお祝いをしていただきました。それから会社に戻りたくさんの仲間と喜びを分かち合いました。そして夕方前になりましたが、父の墓前に報告をしようと車を走らせていたときのことで。何気なくラジオのスイッチを入れましたら、アナウンサーが森山良子さんが大切なお兄さんを亡くされた、そしてその想いを歌詞にされたそうですという語り口調の中で、「涙そうそう」が始まりました。

古いアルバムめぐり ありがとうってつぶやいた
いつもいつも胸の中 励ましてくれる人よ
晴れ渡る日も 雨の日も 浮かぶあの笑顔
思い出遠くあせても おもかげがして
よみがえる日は 涙そうそう

一番星に祈る それが私のくせになり
夕暮れに見上げる空 心いっぱいあなたを探す
悲しみにも喜びにも 想うあの笑顔
あなたの場所から私が
見えたらきつといつか 会えると信じ生きていく

(作詞:森山良子 作曲:BEGIN)

森山良子さんのお兄さんへの想いと私の父への想いがダブって、目頭が熱くなりました。そして車を停めてしばらくの間在りし日の父の思い出を追いかけてきました。

その後、知人を介してお会いする機会を得ました。そして、一度お会いして意気投合し、何度かお茶をしたり食事をしたりをするようになりました。ある時、「お茶でも飲みながら気軽に聴いていただけるようなコンサートができれば」というお話を伺い、私も森山良子

さんの素晴らしい歌声を皆さんに聞いていただきたい、そんな想いもあって、2012年9月に帝国ホテル大阪で「森山良子アフタヌーンティーコンサート」を行いました。日頃おつき合いをさせていただいている方々やパートナー(店舗スタッフ)など600人を招待し、皆さんから大変喜んでいただき、心温まるひとときを過ごさせていただきました。

食博覧会への想い

毎年約3万人ないし4万人が自ら命を断つ日本の現状を考える時、私は人と人との心の触れ合いがあまりにも足りないのも一つの要因になっているのではないかと思います。「食」は触れ合いには欠かせないものです。会話をしながら一緒に食事をすれば心も和む。「食」は、人と人の心の触れ合いを媒介するものだと思います。

また、立ち仕事の外食産業は体力的にも大変な仕事です。それでも従事する人は、つねに安心・安全を考え、お客様に「美味しかったよ」「また来るね」といってもらえることを喜びとして日々頑張っています。

1985年から4年ごとに開催される食博覧会、たくさんの諸先輩の努力で今年、第8回を迎えることになります。

2013年のテーマは「食の絆」。食が取り持つ美味しくして幸せなつながりを国内外に発信する食博は、食の担い手たちの誇りと情熱によって、現在、開幕に向けて着々と準備が進められています。

商いについて

私は、商いというのは人の喜ぶ顔を見るためにする。それが醍醐味であり、店の格になると聞いています。弊社では2012年に始まった元阪神の赤星さんを実行委員長とする交野市チャリティーマラソンの特別協賛企業として、車椅子の寄付や地域活性化のお手伝いをさせていただいています。天神祭への花火協賛やコンサートの開催などといった活動も、当社の「お客様に喜んでいただくと同時に働く全ての仲間の幸せを共有できる組織でありたい」という経営理念に沿った活動です。

藤尾政弘氏

1955大阪市出身。1978年追手門学院大学経済学部卒業、1979年に個人事業でキッチンバーオープン、以後、24のブランドを立ち上げて、日本国内だけでなく海外にも展開。店舗数は652店舗。関西経済同友会幹事、食博覧会実行委員会常任理事・運営統括本部長、大阪外食産業協会副会長、追手門学院大学客員教授、大阪天満宮天神祭花火奉賛会会長等。

株式会社フジオフードシステム

本社 大阪市北区天神橋2丁目北2番6号-2F
飲食店経営、1979年創業。資本金12億559万円、社員498名、パートナー(アルバイト、パート)4,497名(2012年12月末)。



大阪城サマーフェスティバル2012

「西の丸ステージウィーク」

各主催団体が西の丸庭園の特設ステージを共有

大阪のシンボル「大阪城」の知名度やロケーションを活用し、各種団体が主催するイベントを集中させることで観光集客や文化による大阪の活性化につなげる「大阪城サマーフェスティバル」。昨年は7月から9月にかけて、“サマフェス”の名のもと、音楽や伝統芸能、グルメなど34のイベントが展開された。実行委員会事務局を務める関西・大阪21世紀協会も、「西の丸ステージウィーク」を中心にコンサートなどを開催。大阪の多彩な文化活動を発信した。

西の丸ステージウィークは、大阪城天守閣を背景にした西の丸庭園特設ステージを複数の主催者が共有することで、効率的なイベント運営を行う社会実験。大阪城をブランドとして磨くとともに、西の丸庭園から大阪の芸術文化の魅力を広く発信し、文化活動をする人々の育成や発掘、観光コンテンツとしての成長をめざしている。2009年にサマフェスのコア・イベントとして始まって以来、協会はその運

営事務局を担当。昨年は、協会が事業方針に掲げる「文化力の向上と人材育成」に即し、新進アーティストのコンサート「夢の丸芸能座 ユメステ(7月28日)」や、高校吹奏楽部の競演「真夏の夜のプラス～吹奏楽の夕べ at 大阪城(8月1日)」を主催。李 広宏さんによる「日本・中国・世界の心の歌コンサート(7月27日)」や、アノインテッド・マス・クワイヤーによる「大阪城ゴスペルコンサート(7月29日)」、有名アニメソングアーティストによる「nonstop アニソントレイン祭」なども行われ、西の丸庭園は連日熱い歓声で沸いた。

また、協会は初の試みとして「西の丸ステージウィーク」のオープニングを飾る新企画「オープニング・ガラ(7月26日)」を大手門広場にて開催した。吹奏楽やパントマイム、オペラ、ダンス、和太鼓演奏などが、壮麗な石垣や大手門前を背景に次々展開され、西の丸ステージウィークの期待感を盛り上げた。

大阪城大手門広場でドラマチックなパフォーマンス



オープニング・ガラ

(2012年7月26日／主催：関西・大阪21世紀協会)

テーマは「鎮魂そして安心・希望」。東日本大震災被災者への祈りと大阪城の御霊への鎮魂の意を込めるとともに、文化による安心と希望を願って数々のドラマ

チックなパフォーマンスが展開された。ラストのクライマックスでは、坂本九のヒット曲「見上げてごらん夜の星を」を、出演者と観客が一緒になって歌いあげた。



打打打団 天鼓(和太鼓グループ)



いいむろなおぎマイムカンパニー



四條畷学園高等学校吹奏楽部



内藤里美さん(ソプラノ・右)と
村上麻理絵さん(ダンス・左)



ダンスカンパニー ディニオス



大阪府警察音楽隊



松本薫平さん(テノール)



“Ti-chaer's(ちっちゃーず)”
(キッズ・ダンス・チーム)



まさちゃんぐ
(シンガー・ソングライター)



大阪城西の丸庭園 特設ステージ

李 広宏「日本・中国・世界の心の歌コンサート」

(2012年7月27日／主催：李広宏音楽事務所)

音楽を通じて世界の平和を訴え、世界の文化の架け橋になりたいと活動している李広宏さん。今回は「夏の思い出」などの日本の抒情歌や、「蘇州夜曲」など往年のヒット曲をはじめ、「トロイカ」、「枯葉」など世界各国の心の歌を披露した。歌の合間には、東日本大震災の被災地の方との歌を通じた交流のエピソードも紹介。来場者は芝生の上でくつろぎながら、心和む夏の夜のひとときを楽しんだ。



李広宏さん

夢の丸芸能座「ユメステ」

(2012年7月28日／主催：関西・大阪21世紀協会)

音楽やダンスなどの新進アーティストに活躍の場を提供し、さらなる飛躍のきっかけにしてほしいという思いを込めた新企画。アコースティックやロック、フラダンスなど、20組によるエネルギッシュなパフォーマンスが繰り広げられた。



「きみのママより」でメジャーデビューした初田悦子さんのステージ

大阪城ゴスペルコンサート

(2012年7月29日／主催：アノインテッド・マス・クワイヤー)

全国に総勢1,000名のメンバーを擁し、各地での自主コンサートをはじめライブ活動やテレビ出演なども行っているゴスペルグループ「アノインテッド・マス・クワイヤー」。昨年は2010年に次ぐ2回目の参加で、大阪メンバーにワークショップメンバーが加わり、総勢500人のパワフルな歌声が披露された。



アノインテッド・マス・クワイヤー

吹奏楽の夕べ at 大阪城

(2012年8月1日／主催：関西・大阪21世紀協会)

かつての「御堂筋パレード」に代り、高校吹奏楽部に発表の場を提供する新企画。関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者の藤岡幸夫さんを特別ゲストに迎え、追手門学院大手門高校、大阪市立扇町総合高校、明浄学院高校、早稲田摂陵高校の吹奏楽部が出演。藤岡さん指揮による「ラデツキー行進曲」の聴き比べや、出演者全員による「翼をください」など、迫力ある演奏で大勢の来場者を魅了した。



藤岡幸夫さん指揮による演奏風景

nonstopアニソントレイン祭2012 in大阪

(2012年8月3～5日／主催：あにとれ製作実行委員会)

影山ヒロノブさんをはじめ、実力シンガー 20数人が3日間にわたりアニメソングライブを展開。新作アニメプロモーションやラジオ公開録音、コスプレカフェ、B級グルメイベントなども開催された。



ステージ風景



小松原智史さんに大賞

アートストリーム2012

2012年10月26～28日（大丸心齋橋店北館イベントホール）

大阪・関西を中心に活動する新進アーティストに、作品発表の場と支援の機会を提供する「アートストリーム2012」（主催：アートストリーム実行委員会〔関西・大阪21世紀協会、大阪芸術大学、大阪府、大阪市〕）。昨年は12回目を迎え、一般公募で選ばれた61組が、大丸心齋橋店にて絵画や彫刻などさまざまなアート作品を披露した。来場者は3日間で約3,000人。アーティストは作品に込めた思いや制作方法、これまでの活動などをアピールし、来場者とのコミュニケーションも弾んだ。当日は作品の販売も行われた。

最終日には、絹谷幸二氏（画家・大阪芸術大学教授）、蓑豊氏（兵庫県立美術館館長）、中崎宣弘氏（空間構想デザイナー）、田崎友紀子氏（メディアアートプロデューサー・株式会社スーパーステーション取締役副社長）4名の審査員による「アートストリーム2012アワード 大賞・奨励賞」の選考・発表が行われ、小松原智史さん（絵画）が大賞（副賞賞金20万円）を受賞。絹谷氏は、小松原さんのインパクトの強いシュールな作風について、「（他の出展作品のなかで）非常に際立っていた」と称えた。さらに、「私が学生

の頃は、自分の作品を発表し、販売し、賞までもらえるチャンスは存在しなかった。アートストリームは若いアーティストを励ます素晴らしい企画。今回の出展作品はどれを選べば良いか迷うくらい力量が拮抗しており、審査員の方が試されているようだった」と述べ、アートストリームの意義やレベルの高さを評価した。

また、「アートストリーム2012アワード 企業・ギャラリー賞」の一つ関西・大阪21世紀協会賞が藤原郁子さん（日本画）に贈られた。板パネルに高知和紙を巻き込み、にかわで溶いた岩絵具で蓮池などを表現した作品は、絵具から絵筆まですべて天然素材を用いて制作されたもの。「子どもの頃に土や木、水で遊んだ思い出は心の隅に残っています。そうした日本人の心にある原風景を思い出してもらえれば」という藤原さん。来場者からも、「見ていて心が落ち着く」と好評だった。

関西・大阪21世紀協会賞はデザインオフィスを副賞としており、藤原さんの作品は、関西・大阪21世紀協会の「設立30年記念誌」の表紙（文化の女神）などに起用された。



小松原智史さんと受賞作品

奈良県生まれ
2011年大阪芸術大学美術学科卒業、
同大学院芸術研究科在籍中
2013年第16回岡本太郎現代芸術賞
(TARO賞)特別賞受賞

会場風景



藤原郁子さんと作品
京都日本画家協会会員、西宮芸術
文化協会委員、西宮日本画協会
会員、創画会研究会員、悠久画塾主宰。
西宮市在住。



文化の女神(53cm×45cm)



バレエと文楽太夫の共演

アート・アSEMBリー 2012

2012年11月16日 (クラブ関西)

音 楽や演劇、伝統芸能など、大阪・関西を拠点とする優れたアーティストの活動を関西・大阪21世紀協会の賛助会員などに紹介し、アーティスト支援の輪を広げる「アート・アSEMBリー」(主催:関西・大阪21世紀協会)。2010年より毎年11月に開催され、今年度は「文楽meetsバレエ」と銘打ち、地主薫バレエ団(2008年度大阪文化祭賞グランプリ、2012年度同奨励賞)と、文楽浄瑠璃の豊竹咲甫大夫さん(2009年度大阪文化祭賞奨励賞)、三味線の鶴澤清志郎さん(2005年国立劇場文楽賞奨励賞)による特別上演が行われた。

まずは地主薫バレエ団が、グランド・バレエの代表作「くるみ割り人形」第2幕のクライマックスを上演。美しい王子と少女クララがおとぎの国で楽しいひとときを過ごすシーンでは、奥村康祐さん(王子役)をはじめ19名の団員が評判通りのハイレベルな踊りを披露した。

続いて豊竹咲甫大夫さんと鶴澤清志郎さんが、「ひらかな盛衰記 逆櫓(さかろ)の段」を披露。木曾義仲が源義経に討たれた後、忠臣・樋口次郎が主君の仇を討つべく義経

の船の船頭となってその機を伺うが、正体が見破られてしまう無念さを情感豊かに語り聴かせた。

最後は、この日のために作られた文楽とバレエのコラボレーション作品「大蛇退治(おろちたいじ・近松門左衛門作、地主薫演出・振付)が披露された。八岐大蛇(やまたのおろち)の生け贄になった稲田姫を救うべく、奥村康祐さん演じる素戔鳴尊(すさのおのみこと)が大蛇と激しく立ち回る圧巻のシーンでは、ダンサーたちと浄瑠璃語りが見事に一体化し、約100人の来場者に新鮮な感動を与えた。

上演後、奥村康祐さんと豊竹咲甫大夫さんは、「リハーサルに十分な時間をとれなかったが、やってみればぴったりと合わせていただけた。さすが!!」と奇しくも二人の感想は同じ。演出・振付を行った地主薫さんは今回のコラボレーションについて、「ジャンルは違っても、咲甫大夫さんや清志郎さんという素晴らしいプロフェッショナルと共演できてこそ可能なこと。私たちににとっては良い経験になったし、なにより文楽ファンにバレエの魅力を知ってもらうきっかけになればうれしい」と語った。



八岐大蛇と格闘する素戔鳴尊(奥村康祐さん:中央)



豊竹咲甫大夫さん(左)と鶴澤清志郎さん(右)



バレエと文楽太夫の共演シーン



「くるみ割り人形(第2幕より)」



日本舞踊・藤間良太郎さんら受賞 平成24年度 大阪文化祭賞 贈呈式 2012年9月14日（綿業会館）

大阪の芸術文化活動の奨励と普及を目的に、1963年にはじまり49回目を迎えた「大阪文化祭（大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会主催）」。

平成24年度は、昨年5～6月の2か月間にわたり大阪府内で行なわれた54件の参加公演の中から、優れた成果を上げた個人・団体に大阪文化祭賞と同奨励賞が贈られた。

大阪文化祭賞運営委員会会長をつとめる当協会の堀井良股理事長は、賞贈呈式で「今回はベテランの活躍が目立った。大阪における文化・芸術を取り巻く環境は依然厳しいが、こうした先輩諸氏に続いて



藤間良太郎さん（賞贈呈式にて）

若い人たちの受賞者が出ることを期待し、今後も支援していきたい」と挨拶。大阪文化祭賞を受賞した藤間良太郎さん（日本舞踊）は、「早70歳を迎えたが、関西・大阪の舞踊界が盛り上がるよう、終わりのない道を歩んでいきたい」と今後の意気込みを語り、長唄「老松」を披露した。各賞の受賞者は右の通り（敬称略）。



◆大阪文化祭賞

藤間 良太郎（日本舞踊）

「藤間良太郎の会」における『娘道成寺』の成果
関西オーケストラプロジェクト実行委員会
「関西オーケストラプロジェクト2012」における
『4人の作曲家による新作初演』の成果

◆大阪文化祭賞奨励賞

菊央 雄司（地歌箏曲）

「吉村輝尾・菊央雄司ジョイントリサイタル」における
『浪花十二月』の成果

劇団大阪

劇団大阪第71回本公演「イノセント・ピープル」の成果

地主薫バレエ団 地主 薫、奥村 康祐

2012年 地主薫バレエ団公演「コッペリア」における

演出及び演技の成果

（大阪文化祭賞グランプリは該当者なし）



文化事業の専門家に聞く 交流サロン 21café

2012年6～11月（大阪キャッスルホテル 他）

さまざまな分野の専門家を招いてお話を伺うとともに、新たな文化創造に向けてアイデアやコラボレーションのきっかけづくりをめざす交流サロン「21café」。平成24年度はこれまでに4回開催され、大阪を拠点に文化事業を展開する方々の興味深いお話を聴くことができた。

第1回（6月28日）は、能楽師和泉流狂言方の小笠原匡氏を招き、「東洋と西洋、仮面劇の形態を探る!」と題して開催。狂言用の面とイタリア仮面劇「コンメディア・デッラルテ」で用いられる面の特徴が実演を交えて解説された。

第2回（7月14日）は、「大阪に縄文魂を!」と題し、元大阪大学教授 上田篤氏の講演と、清風明育社理事長 平岡龍人氏や一心寺長老 高口恭行氏らによるシンポジウムをNPO法人 国際縄文学協会と共催。日本が世界の大国に伍してやっていけるのは縄文時代以来の歴史があるからだとし、大阪・上町台地で生まれた縄文人の生き方に学び、未来の大阪のあるべき姿について考えた。

第3回（11月6日）は、滋慶学園グループ総長の浮舟邦彦氏と同学園COMグループ総合プロデューサーの喜多静



小笠原 匡氏



浮舟邦彦氏



喜多静一郎氏



前田順一氏

一郎氏を招き、「大阪におけるミュージック・ダンススクールの可能性」をテーマにお話を伺った。同学園は、音楽やダンスなどのエンターテインメント業界の即戦力となる人材教育を行っており、今回は、その教育プログラムや実践的カリキュラムなどが実際の映像を用いて紹介された。

第4回（11月27日）は、イベントなどの照明や音響、映像による空間演出を行う株式会社ハートス代表取締役の前田順一氏を招いて開催。同社は市民創作による「函館野外劇」の第1回公演（1988年）から25年間にわたって照明演出を担当している。今回は、国の特別史跡「五稜郭跡」を舞台に約400人の市民が出演する国内最大規模の「函館野外劇」の歴史や課題に加え、大阪における野外演劇の実現に向けた提案などが紹介された。各回とも30～40名の参加者があり、講演後の交流会では講師と参加者の活発な意見交換が行われた。



レスリング・吉田沙保里さんに「大賞」贈呈

平成24年度 関西元気文化圏賞贈呈式

2013年1月22日（リーガロイヤルホテル大阪）

文化庁と関西元気文化圏推進協議会（会長：森詳介関西地域振興財団会長、副会長：堀井良殿関西・大阪21世紀協合理事長）は、今年1月22日、平成24年度の文化庁芸術祭賞（関西地区）と関西元気文化圏賞の合同贈呈式および祝賀会を開催した。

関西元気文化圏賞は、文化を通じて関西から日本を明るく元気にした人や団体に対して、感謝と一層の活躍を期待して贈られるもの。今年度の大賞は、ロンドン五輪女子レスリング55キロ級で金メダルを獲得し、五輪3連覇を含む世界大会13連覇を達成した吉田沙保里選手（三重県出身）に贈られた。吉田選手はビデオレターを寄せ、「今年は世界大会14連覇をめざして頑張りたい」と抱負を語り、同選手が所属する総合警備保障株式会社（ALSOK）レスリング部の大橋正教監督が代理で受賞した。

また、今回は関西元気文化圏構想（2003年）の10周年を記念して、「いま、問い直す“文化の力”～関西ができること」と題した記念講演とトークセッションも開催された。記念講演の講師は、哲学者・大谷大学教授の鷺田清一氏。トークセッションでは文化庁長官の近藤誠一氏、指揮者・兵庫県立芸術文化センター芸術監督の佐渡裕氏、文化庁関西元気文化圏推進・連携支援室長の天野文雄氏の各氏が鷺田氏が加わり、「文化とは何か」「文化にしかできないことはどのようなことか」といった根本的な問題について意見が交わされた。

その後の祝賀会では、関西元気文化圏設立10周年の記念特別賞を受賞した佐渡裕氏がスピーチに立ち、「（関



佐渡裕氏
（祝賀会にて）



平成24年度 関西元気文化圏賞受賞者、近藤長官（前列中央）、主催者

西元気文化圏を提唱した）故河合隼雄文化庁長官から大きな宿題を与えられた気がする。大阪は関西の元気のシンボル。私は音楽家としてそれを盛り立てていきたい」と語った。各賞の受賞者は次の通り（敬称略）。

◆大賞

吉田沙保里

（レスリング選手／五輪3連覇含め世界大会13連覇、三重県出身）

◆ニューパワー賞

Peach Aviation株式会社

（関西国際空港を拠点とする日本初の格安航空会社）

里見香奈

（女流棋士／史上最年少で女流4冠・クイーン倉敷藤花達成、日本将棋連盟関西本部所属）

正木健人

（柔道家／ロンドンパラリンピック金メダリスト、兵庫県出身）

◆10周年記念特別賞

佐渡 裕

（指揮者・兵庫県立芸術文化センター芸術監督／京都府出身）



曾根崎心中の「お初」も参加

堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2013年2月1日（堂島薬師堂、曾根崎新地一帯）

堂島・北新地の早春の風物詩「堂島薬師堂節分お水汲み祭り（主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会）」が、今年10回目を迎え、塩川正十郎氏（代表発起人・元財務大臣）、安藤忠雄氏（発起人・建築家）、大林剛郎氏（関西経済同友会代表幹事）、熊谷信昭（関西・大阪21世紀協会会長）らが列席、約2万人の来場者で賑わった。

今回は、奈良薬師寺の山田法胤管主による法要のあと、薬師寺僧侶が日本の音楽の原点といわれる「声明（しょうみょう）」を奉納。恒例の北新地芸妓衆の奉納舞や「お化け（仮装）」、龍の巡行に加え、文楽人形遣いの桐竹勘十郎さ



堂島薬師堂で香水を受ける
塩川正十郎氏



桐竹勘十郎さんと「お初」

んが「曾根崎心中」の「お初」の人形を遣って参加し、香水（こうずい）注ぎを行ったあと、北新地本通りを練り歩いた。

文化の伝統を次代へ 上方文化芸能協会の事業を継承



「上方花舞台」(2013年1月30日
/ 国立文楽劇場)
photo © 越田悟全



(左) 地唄「雪」板東玉三郎さん
(下) 長唄「業平」大空祐飛さん



「宝恵駕行列」の芸妓代表 祐子さん
(2013年1月10日 / 大阪ミナミ戎橋付近)

邦舞や邦楽など、大阪の伝統的な上方文化の復興をめざし30年間にわたり活動してきた財団法人上方文化芸能協会が、2012年度末をもって解散し、以後、関西・大阪21世紀協会がその事業を引き継ぐことになった。

上方文化芸能協会は、作家の司馬遼太郎氏をはじめ、作家の田辺聖子氏、山村雄一大阪大学総長、古川進大阪商工会議所会頭、岸昌大阪府知事、大島靖大阪市長、日向方齋関西経済連合会会長、芦原義重大阪21世紀協会会長(全て当時)らが発起人となり1983年に設立された。翌1984年からは、国立文楽劇場(大阪・日本橋)で「上方花舞台」を開催。お座敷でしか見られない芸妓の芸が誰でも見られるようになった。今宮戎神社十日戎の「宝恵駕行列(1月)」や住吉大社の「御田植神事(6月)」など、大阪の伝統祭事にも花街の芸妓が奉仕し、今に続いている。

司馬氏は同協会の設立にあたって「勸進のことは」を寄せ、「私どもの街が持ってきた伝統的な歌舞音曲も、今後、勸進のすがたをとり、私ども大衆の所有物になってゆかねば、ほろびてしまう」と、伝統継承の重要性を訴えている。関西・大阪21世紀協会は、こうした上方文化芸能協会の設立趣意を汲み、上方文化芸能の調査、研究、人材育成などの各種事業を通じ、大阪における伝統芸能の保存発展をめざしていく。

2014年春開業「あべのハルカス」に 新スタイルの都市型美術館が誕生



あべのハルカス(2013年3月現在)
2013年夏に「タワー館(近鉄百貨店など)」の先行オープンを予定している。
画面左下が大阪市立美術館、右手前が天王寺植物・動物園。

2014年春の開業に向けて近畿日本鉄道(株)が近鉄大阪阿倍野橋駅の真上に建設中の「あべのハルカス」は、昨年8月、地上300メートルに到達し、日本一の超高層ビルになった。

地下5階・地上60階、事業費1,300億円の「あべのハルカス」は、百貨店、ホテル、レストラン街、文化ホール、オフィス、展望台などを備える日本最大級の複合商業施設。そしてこの16階に開設されるのが、「あべのハルカス美術館(仮称)」だ。ターミナル立地を活かして気軽に芸術・文化を楽しめる新スタイルの都市型美術館として、国内外の巡回展をはじめ、奈良や京都の近鉄沿線の文化財から西洋美術、現代アートまで幅広いジャンルの展覧会の開催を予定している。ショップやカフェなども併設し、美術鑑賞にプラスした楽しみも提供する。

近畿日本鉄道(株)の小林哲也社長は、今年3月5日の関西経済同友会の講演で、「このプロジェクトの狙いは、当社の経営基盤であるターミナルの機能強化だけでなく、歴史と文化のある阿倍野・天王寺エリアを、大阪の新しい都市格として発展させることにある」とし、「市立美術館や天王寺植物・動物園などの大きな集客力を持つ施設とも、相互にお客様を送りあえる協力関係を構築していきたい」と述べている。

関西・大阪21世紀協会は今年2月26日、インテリジェントアレー専門セミナー(関西社会人大学院連合主宰)において、同美術館特別顧問の養豊氏(兵庫県立美術館館長)を講師に招き、「あべのハルカスからの文化発信」をテーマとする講座を提供。養氏は、「完成すれば西日本一の美術館になる。市民はそれを誇りに思っしてほしい」と語った。



養 豊氏
(インテリジェント・アレー
専門セミナーにて)

見巧者も初心者も楽しませる 地主版「コッペリア」の真骨頂

地主 薫さん(左)と奥村康祐さん(右)
(地主 薫バレエ団・吹田市)にて

人形と知らずにコッペリアに好意を寄せる村の青年フランツと、それに気を揉む恋人のスワニルダ。ある日、スワニルダはコッペリアの正体を確かめようと、偏屈な老人人形師コッペリウスの工房に忍び込む…。

2012年5月梅田芸術劇場にて上演したグランド・バレエの名作「コッペリア」(写真右下)で、同年度の大阪文化祭賞奨励賞を受賞した地主薫バレエ団。同団は、2008年上演の「ロミオとジュリエット」でもバレエで初めて大阪文化祭賞グランプリを受賞するなど、今年創立25年の比較的新しいバレエ団でありながら、その実力はすでに定評がある。昨年受賞のコッペリアでは、地主さん独自の演出と、主役(フランツ)を務めた奥村康祐さんの二人を中心に、団員全体が力を発揮して魅力的な舞台に仕上げた点が高い評価を得た。

「大人から子どもまで楽しめる舞台にしたい」という地主さんは、初めてバレエを観る人でも楽しめる分りやすい演出を身上とする。コッペリアでは、各幕の冒頭でストーリーを紹介したり、通常は舞台上手前にあるコッペリウスの工房を舞台正面に配し、客席のどの位置からも人形コッペリアが動いているところが分かるような配慮もした。物語を良く知る人は、客席から工房が見えなくても音楽を聴いているだけで「今、コッペリアが動いている」と察するが、知らない人はそうした想像が働かないからだ。

こうした前説や舞台設定は見巧者にとっては不要なのかもしれない。しかしバレエ初心者にとっては、物語の世界により早く深く入り込む手助けとなる。演目によって演出の自由度は異なるが、地主さんはすべての観客にバレエの面白さを知ってほしいからこそ、そうしたサービス精神を怠らない。原典に固執せず、偏屈なコッペリウスを「じつは心優しい老人」にしたり、コッペリウスに見つかった人形のふりをするのがスワニルダだけではなく、フランツの友人たちも一緒だったりと、登場人物の性格や

展開にも工夫。こうした意外性は、地主版「コッペリア」ならではの魅力だ。今年11月7日にフェスティバルホール(大阪市北区)で上演予定の創立25周年記念公演「シンデレラ」では、なんとシンデレラの生い立ちが明かされるとか。「創立25年の若いバレエ団だからこそ、思い切ったチャレンジもできる」と地主さんはいふ。

一方、「ロミオとジュリエット」「コッペリア」ともに主役を務めた奥村さんは、5歳から地主さんに師事する同バレエ団の中心的存在。国内外での受賞歴も多い。2011年には文化庁芸術祭新人賞を受賞し、現在、新国立劇場バレエ団(東京)のダンサーとしても活躍する。今年3月16日には日本バレエ協会公演「白鳥の湖(東京文化会館)」で王子役(ジークフリード)を務め、6月30日に新国立劇場バレエ団で上演予定の「ドン・キホーテ」では、主役(バジル)に抜擢された。

奥村さんが目指すのはクオリティーの高いバレエ。そのために「できるだけ多くの役をこなし、自分の芸術性を高めていきたい」という。端正な容姿に王子役として天賦の才を感じさせるが、地主さんいわく「ひたすら努力するタイプ」。演技力にも優れ、昨年11月のアートアセンブリーでは、文楽太夫とのコラボレーション作「大蛇退治(おろちたいじ)」で、素戔鳴尊(すさのうのみこと)を好演した(P12参照)。ここでも地主さんの創意と奥村さんをはじめ団員たちの個性がきわだつ、地主バレエの新境地を見る思いがした。

(ライター 三上祥弘)

地主 薫さん
(地主 薫バレエ団・代表)

奥村康祐さん
(同 バレエ団・プリンシパル)

平成24年度大阪文化祭賞奨励賞受賞

地主薫バレエ団公演「コッペリア」
(2012年5月20日・梅田芸術劇場)
photo ©尾鼻文雄



今年の夏も、熱い体験を楽しもう!

多彩な文化の扉を開けよう!
インターナショナル・ワークショップ・フェスティバル

DOORS 7th



本場リオのカーニバル仕込みのサンバを体験
(パヌーザ・サンチアゴ講師/昨年度)

「一度やってみたかった」「プロのコツを教わりたい」というニーズにワンコイン(500円)で応えるワークショップの見本市「DOORS(ドアーズ)」。7年目を迎える今年は、従来の多彩なジャンルに加え、「インターナショナル」をテーマに世界各国の文化や日本の伝統芸能などの体験講座を充実させる予定です。ちなみに、これまで開講されたワークショップの数は延べ

1000講座以上。昨年はこれまででとくに人気の高かったものを100講座厳選し、「DOORS 100 SELECTION」と銘打ち開催しました。これだけ大規模なワークショップフェスティバルは国内はもとより世界にも例がなく、レジャー感覚で他府県から泊まりがけでいくつもの講座に参加する人もいほど。この夏、さまざまな文化創造の扉(DOORS)を開けてみませんか。

- 日 時 8月1日(木)～11日(日) 10:30～20:30 (予定)
 - 会 場 大阪市中央公会堂(最寄駅:地下鉄御堂筋線「淀屋橋」)、
大阪市立芸術創造館(最寄駅:地下鉄谷町線「千林大宮」)、他
- ※7月1日よりチケット予約開始
※プログラムの詳細は6月上旬にホームページ等で発表します。
問合せ: IWF実行委員会事務局(大阪市立芸術創造館内) ☎06-6955-1066
ホームページ <http://www.iwf.jp/> Eメール: info.doors@artcomplex.net

幻想的な七夕の夜景に浸る!

平成OSAKA天の川伝説2013



昨年の実施風景

大川・八軒家浜では、水に輝く「いのり星®」に願いを託し、一夜限りの「天の川」を出現させる市民参加イベント「平成OSAKA天の川伝説」が、今夏も開催されます。昨年は約5万個のLED球を放流。約500mにわたって青白く輝く“天の川”を、カップルや親子連れなど約39,000人が鑑賞しました。

市民による大阪の景観づくりとして2009年に始まったこのイベントは、すでに全国各地に共感の輪が拡大。今では東京や仙台など、国内各地で「いのり星」の放流イベントが行なわれています。2013年も関西・大阪21世紀協会が中心となり、さらなる発展をめざして実施します。

- 日 時 7月7日(日) 19:00～21:00(予定)
※天候等によりプログラムを変更する場合があります。
- 会 場 大川・八軒家浜一帯
※特別観覧エリアへの入場は、放流券の購入が必要です。
- アクセス 京阪・地下鉄谷町線「天満橋」駅下車すぐ

主 催: 平成OSAKA天の川伝説実行委員会、関西・大阪21世紀協会
問合せ: ☎06-6942-2004 FAX06-6942-5945(関西・大阪21世紀協会)

後援・協賛イベント

OSK日本歌劇団レビュー「春のおどり」

劇団創立91年を迎えたOSK歌劇団による春の名物催事。出演予定・桜花昇ぼる・高世麻央・朝香櫻子・桐生麻耶ほか。劇団員38名出演。◆4月19日(金)～29日(月・祝)12:00～



14:30、16:00～18:30(2回公演)※19日(金)、24日(水)はお昼のみ。／大阪松竹座／1等席8,500円、2等席4,500円／問合せ:大阪松竹座 ☎06-6214-2211、FAX06-6214-2205

アマチュアクラシックフェスティバル2013 ピアノ・声楽コンクール in OSAKA

意欲あるクラシック愛好家に、経歴や年齢を問わず出場できる機会を提供。本コンクールをさらなる研鑽の場とし、プロを目指す音楽家を育成。◆4月28日(日)11:00～16:00／あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール／一般前売2,000円、一般当日2,500円、小中高生1,000円、未就学児500円／問合せ:KOSMA事業課 ☎078-646-9001、FAX078-646-9002

いけばなインターナショナル 大阪支部 第22回フェスティバル

いけばな、お茶席、文楽公演を通して在阪外国人に日本の伝統文化を紹介。外国人はいけばなやお茶席、文楽の体験もできる。◆4月28日(日)11:00～16:30／大阪国際交流センター／入場無料／いけばな体験要予約／問合せ:いけばなインターナショナル大阪支部 mail to: chihirorisak@gmail.com FAX06-6661-3751



第18回日本民謡ジュニアフェスティバル 2013全国大会

幼児から中学生までの民謡全国大会。コンクール、高齢者と子どもたちが一緒に歌う企画もあり。◆4月29日(月・祝)10:00～17:00／大阪府立中央図書館ライティーホール／入場無料(整理券発行)／問合せ:(社)全大阪みんよう協会事務局 ☎・FAX06-6757-7051

第15回高槻ジャズストリート

市民ボランティアが企画・運営し、国内外から約4,000人のミュージシャンが市内53会場で演奏。◆5月3日(金・祝)～4日(土・祝)10:00～21:00／高槻現代劇場、高槻城跡公園ほか53会場／入場無料／問合せ:高槻ジャズストリート実行委員会 ☎072-662-7222、FAX072-662-7333

第36回浜寺ローズカーニバル

300種6500本のバラが咲き誇る春「水と緑と太陽と…命いきいき、街いきいき」をテーマに開催する住民主体の手作りイベント。浜寺地区全体のお祭りとして、大阪南部地域の活性化をめざす。◆5月19日(日)10:00～16:30(雨天順延・5月26日・10:00～15:30)／浜寺公園内中央噴水広場周辺／入場無料／問合せ:浜寺公園振興協議会 ☎072-261-2030、FAX072-263-2268



梅谷裕子ソプラノデビュー15周年 記念コンサート

3rdアルバム「うたは愛」リリース記念。指揮・梅谷忠洋、ソプラノ・梅谷裕子、演奏・エウフォニカ管弦楽団、コーラス・ゆう子の楽しい歌の教室、NHK文化センターほか。音楽を通して少しでも多くの人に希望の光を。◆5月24日(金)19:00(開演)～21:00／いずみホール／4,000円／問合せ:梅谷裕子後援会 ☎072-874-8125、FAX072-874-8113



第5回関西バリ舞踊祭

関西を中心に活躍中のバリ舞踊家が一堂に会し、ガムラン奏者とともに神様に奉納。特別ゲスト I ketut Budiya氏(ガムラン演奏家)来場。インドネシア・バリの料理や雑貨など売店も出店。◆6月8日(土)17:00～19:30／岸城神社境内(大阪府岸和田市)／入場無料／問合せ:関西バリ舞踊祭実行委員会事務局(岸城神社内) ☎072-422-0686、FAX072-430-3600



第6回高等学校軽音楽部大会 高校軽音フェスティバルin大阪城

高校部活動として軽音楽を学んでいるバンドを全国から募り、大阪城の「夢のステージ」への出演機会を提供。一般の方々にも観覧していただき、音楽の楽しさを共有し広める。◆6月9日(日)12:30～19:30頃／大阪城野外音楽堂／入場無料／問合せ:専門学校ESPエンタテインメント ☎06-6373-2888、FAX06-6373-2887

タケモトピアノ presents 第53回3000人の吹奏楽

関西地区で活躍するプラスバンドの精鋭たち約3,000人(中学、高校など)による吹奏楽の祭典。収益金の一部はFNSチャリティーキャンペーンを通じ日本ユニセフ協会に寄付。◆6月22日(土)14:00開場・15:00(開演)～19:00／京セラドーム大阪(自由席)前売1,500円・当日1,900円、(上段・下段/指定席)前売1,800円・当日2,200円／問合せ:「3000人の吹奏楽」公演事務局(関西テレビ事業局内) ☎06-6314-8262(11:00～18:00土日祝除く)



※イベント内容の詳細については、各問合せ先にお問合せください。
※ここに紹介する以外にも、関西・大阪21世紀協会は多数のイベントなどを後援しています。

関西・大阪21世紀協会賛助会員へ入会のご案内

大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口でも結構です)

■法人会員一口につき年会費10万円

■個人会員一口につき年会費1万円

特典

1.協会が発行する刊行物の配布

2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内

3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ(公財)関西・大阪21世紀協会 広報・総務チーム TEL.06-6942-2001 FAX.06-6942-5945

天満で響け! ミナミで奏で! 船上の吹奏楽 OSAKA水上音楽パレード2013

大川・八軒家浜船着場で、関西フィルハーモニー管弦楽団・首席指揮者の藤岡幸夫氏がタクトを振り、大阪市立扇町総合高等学校、四條畷学園高等学校、東海大学付属仰星高等学校の高校生たちが元気いっぱい演奏します。

さらに今年は、大阪スクールオブミュージック高等専修学校「SO.ON project」(滋慶学園COMグループ大阪)の歌とダンス、そして箕面自由学園高等学校のチアリーディングやマーチングなど、全国トップクラスの実力校が出演します。夕刻、パレード船は道頓堀川に向かい、ミナミを音楽で盛り上げます。



藤岡幸夫氏
関西フィルハーモニー管弦楽団
首席指揮者

日時 4月27日(土) 13:30スタート **観覧無料**

会場 大川・八軒家浜船着場、道頓堀川(日本橋~戎橋/夕刻)

出演(予定)
 [吹奏楽] 大阪府警察音楽隊
 [吹奏楽部] 大阪市立扇町総合高等学校、四條畷学園高等学校、東海大学付属仰星高等学校
 [ダンス部] 四條畷学園高等学校
 [歌・ダンス] 大阪スクールオブミュージック高等専修学校「SO.ON project」(滋慶学園COMグループ大阪)
 [チアリーディング部・吹奏楽部] 箕面自由学園高等学校 GOLDEN BEARS
 MJGチアリーディングクラブ TEDDY BEARS

アクセス
 [八軒家浜] 京阪・地下鉄谷町線「天満橋」駅下車すぐ
 [道頓堀川] 地下鉄「なんば」駅下車徒歩

問合せ ☎06-6942-2004 FAX06-6942-5945(関西・大阪21世紀協会)
 ※詳細は当協会ホームページにてご案内しています。(http://www.osaka21.or.jp/)

主催 (公財) 関西・大阪21世紀協会
協力 大阪シビックルーズ推進協議会、大阪府吹奏楽連盟 他
協賛 大阪市信用金庫
 滋慶学園COMグループ大阪(大阪スクールオブミュージック専門学校・大阪コミュニケーションアート専門学校・大阪ダンス&アクターズ専門学校・放送芸術学院専門学校・大阪アニメーションスクール専門学校・大阪スクールオブミュージック高等専修学校)
 三菱地所(株)

※天候によりプログラムを変更または中止する場合があります。

日本最大級! 4年に1度の「食」の大イベント '13 食博覧会・大阪

The International Food Expo UTAGE in OSAKA



日時 4月26日(金)~5月6日(月・祝)
 10:00~18:00(最終日は17:00まで)

会場 インテックス大阪
 (大阪国際見本市会場) 1~6号館A・B

<プログラム>
 ・連日多彩なステージ! ギネス挑戦企画もあり(フッピープラザ)
 ・バラの国ブルガリアから民族舞踊団が来日!(食博劇場)
 ・関西の「うまいもん」が大集合!(食いだおれ横丁館)
 ・世界の珍しいお米料理を体験!(スミル・マルシェ食育館)
 ・技が光る「食のコンクール」を開催!(宴テーマ館) 他

入場料 大人(高校生以上)2,000円(前売1,500円)
 子ども(小・中学生)1,000円(前売 750円)

アクセス 地下鉄中央線、南港ポートタウン線
 「コスモスクエア」駅下車徒歩約10分

問合せ ☎06-7668-0377 FAX06-7668-0378(食博覧会実行委員会)
主催:食博覧会実行委員会、(社)大阪外食産業協会 **協力**:大阪商工会議所、(公財)関西・大阪21世紀協会